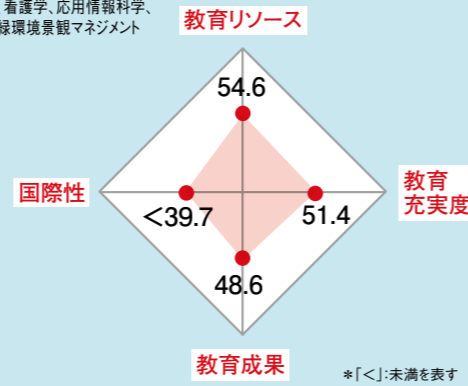




学生数/6682人 学部/経済、経営、工、理、環境人間、看護  
大学院/経済学、経営学、工学、物質理学、生命理学、環境人間学、看護学、応用情報科学、シミュレーション学、地域資源マネジメント、減災復興政策、会計、経営、緑環境景観マネジメント  
●THE世界大学ランキング2018/1001+位  
●同アジア大学ランキング2018/301-350位  
●同世界大学ランキング日本版2017/82位

THE世界大学ランキング日本版2018の結果

分野	スコア	順位	その他指標
総合	48.6-49.9	101-110位	外国人学生比率/2.6%
教育リソース	54.6	86位	日本人学生の留学比率/3.4%
教育充実度	51.4	137位	外国語で行われている講座の比率/2.6%
教育成果	48.6	104位	海外の大学との大学間交流協定数/39件
国際性	<39.7	-	



取り組み体制

▶法人本部経営企画部が担当

分野	重点度	取り組み	指標
教育リソース		▶世界最先端の施設(理化学研究所のスーパーコンピュータ「京」など)を活用した共同研究を推進することなどで、教員の研究および、学生のドクターコース進学を支援	▶外部研究資金(科研費)の申請率100% ▶外部資金獲得額25億円
教育充実度		▶高校校長会と大学執行部で高大接続に関するディスカッションを実施 ▶出前講義を県内中心に100校程度で実施 ▶新設の社会情報科学部(設置構想中)では、ビッグデータを分析・活用する教育環境を整えるため、新教育研究棟を建設予定	▶大学志願者倍率7倍 ▶就職率99%
教育成果	◎	▶地元企業との共同研究の推進(画像データ判別による会計システムなど) ▶研究機関の研究者との連携、学学連携(神戸大学や他の公立大学など)の推進	▶博士号学位取得者数の増加 ▶共同研究・受託研究件数220件
国際性	◎	▶グローバルリーダー教育プログラムの開設 ▶国際商経学部の新設(設置届出中) ▶県内企業が進出している地域を中心に、海外インターンシップを拡大 ▶国際学生寮の新設	▶派遣および受け入れ留学生数各300名 ▶外国人教員比率10%

注目!

社会のニーズに対応した特色ある2学部を新設

兵庫県立大学は、2019年度に「国際商経学部」「社会情報科学部」を設置予定。国際商経学部には3つのコースがあり、中でもグローバルビジネスコースでは、授業を全て英語のみで行い、1年次は日本人学生と留学生が国際学生寮で共同生活する。社会情報科学部では、ビッグデータの収集・解析・実社会への応用等の知見を身に付けさせる。

高坂誠副学長は「グローバル人材の育成もビッグデータの収集も、学内で完結できるものではない。企業や行政に協力をお願いすることは不可欠だ。グローバル大学をめざして地域・世界との連携を強化し、学部の教育の質を高めたい」と話している。

国際商経学部 \*設置届出中

【特色】  
経済学・経営学の両輪を学び、グローバル人材をめざす  
【学科】  
国際商経学科  
【コース】  
経済学コース、経営学コース(定員280名)  
グローバルビジネスコース(定員80名 留学生含む)

\*2018年4月現在の予定(変更する場合があります)

社会情報科学部 \*設置構想中

【特色】  
ビッグデータを収集・分析し活用することを学ぶ  
【学科】  
社会情報科学科(定員100名)

\*2018年4月現在の予定(変更する場合があります)

学内資源の活用と地域連携を強化  
新学部設立により国際化と特色化を推進  
兵庫県立大学

地域に根差した総合大学である兵庫県立大学。特色化を図るうえで、日本版ランキングの結果をどう分析・活用するのか。学長に考えを聞いた。



学長 太田 勲

おたいたいさお ●1967年大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻修士課程修了。1993年姫路工業大学工学部教授。2001年姫路工業大学工学部長。2013年兵庫県立大学副学長、産学連携・研究推進機構長、学術総合情報センター長。2017年より現職。専門は光・電磁波工学など。工学博士。

取材・文/本同学 撮影/岸隆子

新学部をグローバル化の量的な拡大の起爆剤に

ランキングは、外から見た大学の強み弱みを示すものとして、強く意識しています。今回の分野別順位からすると、本学の強みは「教育リソース」で、課題は「国際性」にあると言えるでしょう。

「国際性」については、2013年度からグローバルリーダー教育プログラムを設け、高度な英語教育や海外研修等を実施し、その向上に取り組んできました。現在は副専攻プログラムとして約1000人の学生が受講していますが、約1300人の入学定員からすると、受講者の割合は決して大きくはありません。量の面で課題があり、そのことがランキングの「国際性」のスコアに表れているのだと思います。グローバル教育の質的な向上と同時に、量的な拡大も

めざさなければならぬでしょう。拡大の起爆剤になると考えているのが、2019年度に開設予定の国際商経学部(設置届出中)です。この学部には、全て英語で授業を行い、1年次には、日本人学生・留学生が共に学生寮で共同生活を送ります。英語で行う授業は他コースの学生も履修できるようにします。留学生の募集についても、東南アジアを中心に活動を強化していきます。これにより学部、およびキャンパス全体の国際化の推進につなげたいと考えています。

近隣の先端研究施設を活用し、特色化を図る

「教育充実度」「教育成果」のスコアも伸ばしていく必要があります。

す。それには、学内資源を活用した研究力の強化と、特色化の推進により、大学のプレゼンスを高めることが重要です。

研究力強化に向けては、まず博士課程への進学率を高め、大学院の研究を活性化させます。兵庫県には大型放射光施設(SPring-8)やX線自由電子レーザー施設(SACLA)など、世界最先端の研究施設があり、本学の教員にはそれらを活用し、研究している者が数多くいます。こうした環境面での利点を生かして、学生の研究意欲を刺激し、博士課程への進学者を増やしていくつもりです。

また、ビッグデータの収集・分析を専門的に学ぶ社会情報科学部を2019年度に開設予定(設置構想中)です。本学には、スーパーコンピュータ「京」を有する施設と連携した大学院研究科があります。その研究者が社会情報科学

部の専任教員として、学部生の教育にあたる予定です。学内資源を生かした特色ある教育・研究を実現することで、他大学のデータサイエンス系学部との差別化を図ります。

県立大学である本学にとって、兵庫県や県内の企業、自治体との連携は使命です。例えば、画像識別によりパンなどの商品の購入金額を瞬時に計算する「AIレジ」の開発は、地元企業が抱える課題を共同で解決したその好事例でしょう。この他にも灘の酒で有名な兵庫ならではの日本酒の商品開発などで、地域とはシームレスにつながっています。

大学をグローバル化すること、研究力を高めることがゴールではありません。その先に大学として地域に何ができるかを追求することこそ、本学の存在意義があると考えています。